

# 1 活発な旧石器時代人

～富士川から愛鷹・箱根山麓～

## 1 獲物を求めて

沼津市の元野遺跡、長泉町の富士石遺跡などで、今から3万年前の地層から打製石器群が発掘されており、これらが静岡県において確認できる最古の人間の生活の跡である。富士山が背後にそびえ駿河湾を見下ろす、この愛鷹山麓から東の箱根山麓にかけての地域では、1万年以上前の火山灰の地層中から打製石器を伴う旧石器時代の遺跡が多く発掘されている。



〈写真1〉石囲炉（向田A遺跡）



〈写真2〉落とし穴群（八田原遺跡）

当時はいわゆる氷河期で、日本はまだ大陸と地続きであり、火山活動が活発な環境であった。山中には寒冷な気候に対応した背の高い針葉樹林が広がり、鹿などの大型獣が現在より多く生息していたと考えられる。これらの獲物を追いかけて、石器の槍で仕留めるハンターたちが山麓に生活していたのであろう。住居らしき跡は確認されていないが、火を焚いて肉をバーベキューにする時に使うような石を配した炉〈写真1〉が長泉町野台遺跡や向田A遺跡、沼津市休場遺跡などで、いくつか確認されていることから、獲物を追って集団で移動し続けるキャンプのような生活をしていただことが想像できる。また、長泉町富士石遺跡や三島市初音ヶ原遺跡、八田原遺跡などでみられる配列された落とし穴〈写真2〉の存在からは、組織立った狩猟が行われていたことも想像できる。これらの炉や落とし穴

は、関東でも確認されているが、今のところ他県では散在するもののこれほどまとまっては確認されておらず、静岡県の旧石器文化を特徴づけるものといえそうである。

発掘された打製石器の槍は、地層の上下関係から新旧を比べることができる。特に愛鷹山麓の地層は火山灰が何層にも堆積して横縞模様をなしており、地層の区別がしやすい。そうした地層の下層で発掘された槍と比べると、上層で発掘された槍のほうに細かく薄い物が多い。石を割って石器を作る際に、当初は周囲に飛び散った破片を捨て、中心の大きな核の部分のみ使っていたのが、次第に破片のほうもその鋭さを利用するために使い始め、最後には細かい破片までも拾い集めて組み合わせて使う（細石器＝マイクロリス）ようになっていったようだ。当時の人々が無駄のない生活をしていただことがわかる。

## 2 石材からみる交流

ところで、この愛鷹山麓から箱根山麓にかけての地域に生活した人々は、石器製作に使う石材に対して、今でいうブランド志向のようなこだわりがあるらしく、そのあたりにあるいろいろな石を使っているのではない。一つの石材に固執する傾向がみられ、この地域では90%以上が黒曜

石である〈グラフ1〉。しかも、地元産よりも遠隔地の長野県産などが多く、伊豆諸島の神津島産なども使用しているのである。より良い石材を求めて、遠隔地と交易をしていたのか、それらの石器を持った人々が移動してきたのかのいずれかであろう。愛鷹山麓の西には富士川が流れている。富士川の谷から上流の甲府盆地、さらに諏訪湖周辺の盆地は、いわゆるフォッサマグナという断層帯によって周囲の山岳地形より低く平坦な地形が続いており、山梨や長野と行き来がしやすく、南北の広い範囲で人やものが活発に交流できたのであろう。また、伊豆諸島産の石材は船による行き来がなければ獲得できないと思われるので、これもまた、当時の人々の活動が想像以上に活発であったことを物語っている。

県内では他に、西部の磐田原台地でも1万年以上前の打製石器群が発見されているが、こちらでは黒曜石がほとんどなく、地元天竜川産の頁岩が90%以上を占める〈グラフ1〉。やはり一つの石材に固執する傾向がみられるが、地元産で賄っている。石器の総数から、東部の愛鷹山麓周辺に比べると、この磐田原台地周辺に生活した人々が人口の少ない小集団であったことがわかる。こちらは他地域と積極的に交流することなく、地元の狭い範囲内で活動していたのであろう。逆に、愛鷹山麓から箱根山麓にかけての旧石器時代人たちの広く活発な活動が際立ってくる。

### 3 環境の変化と定住

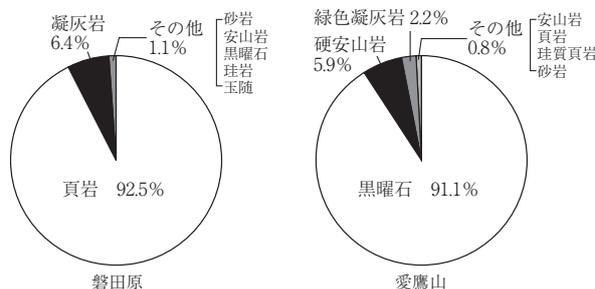
2001(平成13)年、富士川沿いの芝川町大鹿窪遺跡で、縄文時代草創期の半円形に並んだ11軒の竪穴住居の跡〈図1〉が発見された。広場を中心にとまとった典型的な縄文時代の定住集落の遺跡としては我が国最古級のものである。旧石器時代、この富士川沿いを通して南北に活発に移動したハンターたちがいたことを想定した。今から1万年から8千

年前にかけて、氷河期が終わって次第に温暖化し、森林も広葉樹主体になったと考えられる。森林の動物相も変化し、海水面も上昇したであろう。この大きな環境変化のなかで、これらの人々のうち、獣を追って移動し続ける生活を止め、森の小動物や果樹、水辺の魚や貝など様々なものをバランス良く食料として利用し、生活を安定させ定住するものが出てきたのではないだろうか。

〈参考文献〉

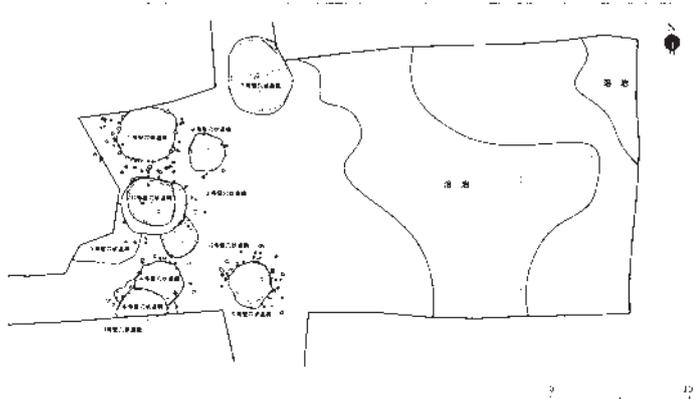
『静岡県史』通史編1 原始・古代、別編3 図説静岡県史  
静岡県埋蔵文化財調査研究所『静岡の原像をさぐる』(2003年)、『愛鷹山をかけた旧石器人』

〈グラフ1〉 磐田原と愛鷹山麓の石材利用比率



『静岡県史』通史編1 原始・古代 56頁より

〈図1〉 竪穴住居の跡



芝川町教育委員会『大鹿窪遺跡窪B遺跡』遺構編 74頁より